

2021年3月期 1Q決算補足資料

2020年8月7日
株式会社ウィルグループ（東証一部 6089）



I. 2021年3月期 1Q実績

II. 2021年3月期 業績予想/配当予想

III. 参考資料

*本資料に記載の「売上」は、日本基準の「売上高」、IFRSの「売上収益」
「自己資本比率は」、日本基準の「自己資本比率」、IFRSの「親会社所有者帰属持分比率」

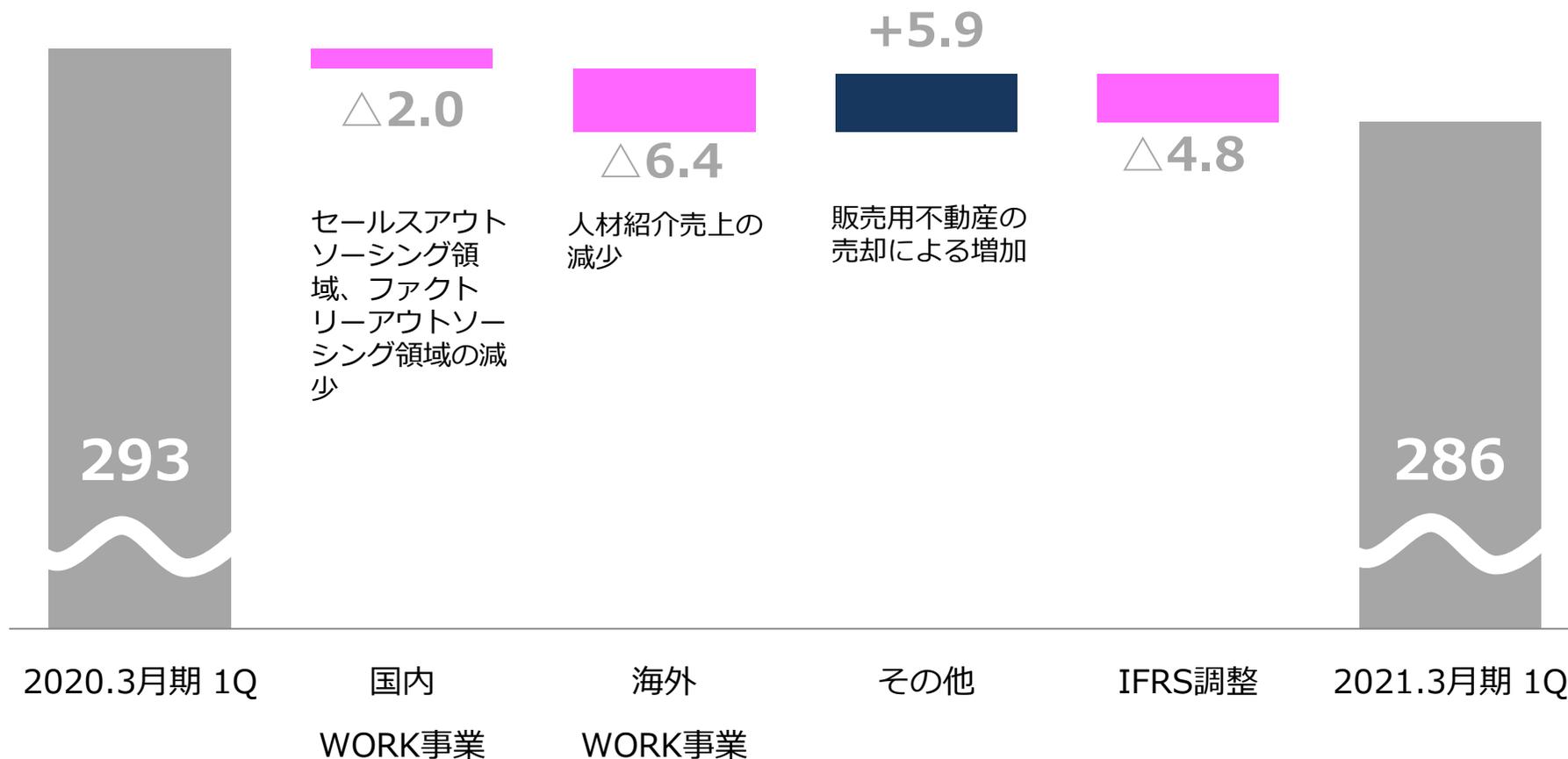
I .2021年3月期1Q 実績

新型コロナウイルス感染症拡大の影響があるものの、 コールセンターアウトソーシング領域、介護・保育領域が順調に推移

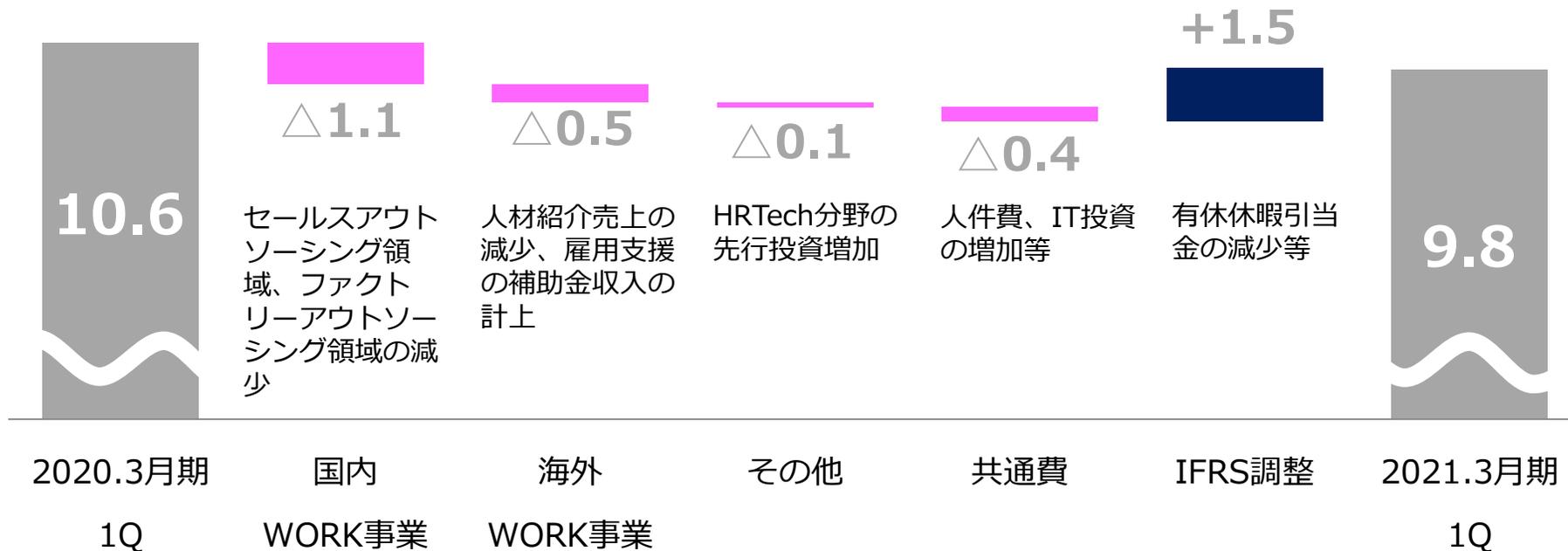
(億円)	2020.3月期 1Q	2021.3月期 1Q	前年同期比	
			増減	増減率
売上収益	293.7	286.3	△7.3	△2.5%
売上総利益 (売上総利益率)	62.3 (21.2%)	58.6 (20.5%)	△3.7 (△0.7pt)	△5.9%
営業利益 (営業利益率)	10.6 (3.6%)	9.8 (3.5%)	△0.7 (△0.2pt)	△7.0%
税引前四半期利益	10.3	9.7	△0.5	△5.6%
親会社の所有者に 帰属する四半期利益	6.2	6.3	+0.0	+0.6%
EBITDA (営業利益+減価償却費及び償却費)	15.0	15.1	+0.0	+0.6%

従業員数：4,870人
(前年度末比：+382人増)

(億円)

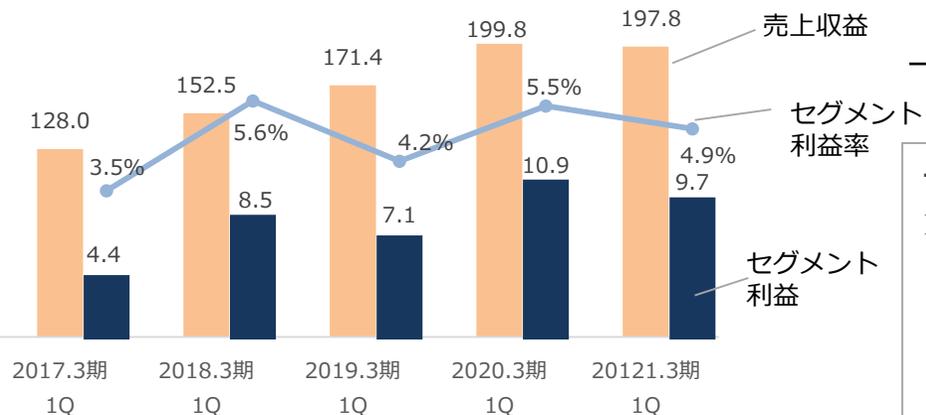


(億円)



セグメント	分野	当初業績予想時に想定していた 新型コロナウイルスの影響	1Q時点での 新型コロナウイルスの影響と対策
国内WORK 事業	販売支援分野	販売は、店舗営業の制限により稼働減少。セールスプロモーションはイベント開催自粛。有給休暇の増加、休業補償により粗利減	5月下旬に緊急事態宣言が解除され、通信に関しては需要堅調も、アパレル、セールスプロモーションは引き続き厳しい状況。安定している通信の営業強化。 休業補償等粗利影響は、一部顧客による負担もあり、1Q影響は当初想定より少なく、2Q以降影響はない見通し。
	コールセンター分野	コールセンターの稼働は減少。有給休暇の増加により粗利減	ソーシャルディスタンス対応等により稼働数は減少したものの、1人当たり単価の上昇により順調に推移。また、有給休暇増加による粗利減を見込んでいたものの、影響は軽微。
	ファクトリー分野	食品分野は影響は少ないものの、食品以外は減産によりオーダー減少。有給休暇の増加、休業補償により粗利減	食品分野は、堅調に推移しているものの、外出自粛の影響により外食向け商材では減産によるオーダーの減少。 食品以外の分野は、減産によるオーダー減。また、新規オーダーも低調のため、堅調な食品分野等の既存顧客への営業強化。 有給休暇増加による粗利影響は、上期中は継続する見通し。
	介護/保育分野	新規オーダー数、採用についても他業種からの流入があり順調に推移	採用については、他業種からの流入があり順調に推移。ただし、直接雇用の増加により派遣オーダーは減少傾向。新規取引営業強化。
	スタートアップ人材支援分野	求人は減少傾向にあるも、経営幹部層/エンジニアの求人は引き続き旺盛	クライアントの採用計画見直し等により、5月の人材紹介受注高は前年比4割減となるも、6月以降求人、受注とも回復傾向。
	その他	ALT派遣は臨時休校の影響、建設技術者派遣は新規オーダー減少しているものの大きな影響なし	5月下旬の緊急事態宣言解除以降、学校も再開したことでALT派遣への影響はなし。建設技術者についても、需要は堅調であり、採用環境が好転のため新規営業強化。
海外WORK 事業	シンガポール他 オーストラリア	人材紹介はオーダー減、人材派遣、政府系、IT、ファイナンス、リーガルは影響は少ないものの、それ以外の分野は受注減の見通し	景気減速、ロックダウン等による企業活動の停滞により人材紹介はオーダー減少するも、7月に入りオーダー回復の見通し。 人材派遣については堅調に推移しており、人材派遣拡大にシフト。

-売上収益、セグメント利益（億円）-



(億円)

実績

前年同期

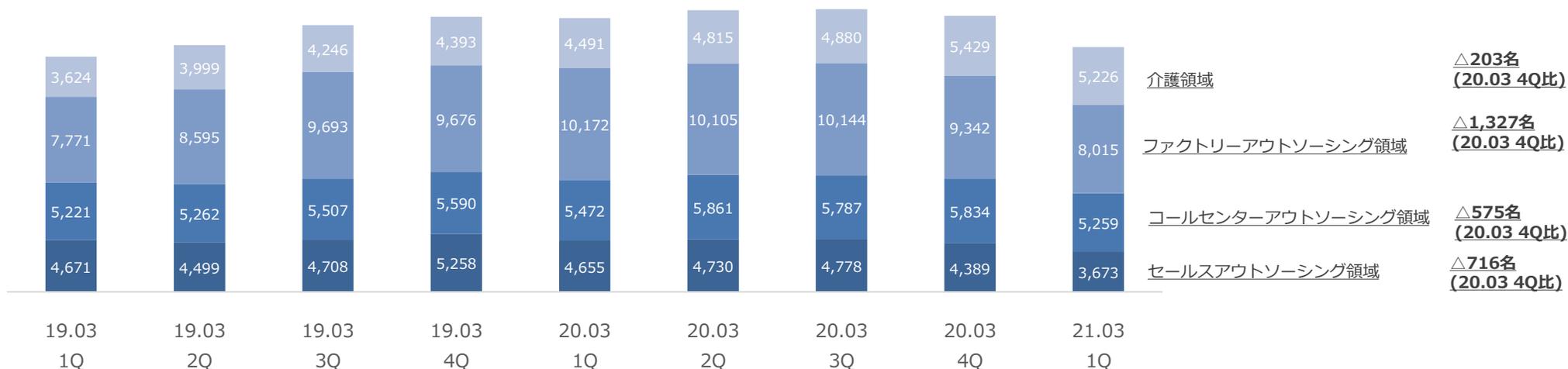
前年同期比

	実績	前年同期	前年同期比
売上収益	197.8	199.8	△1.0%
セグメント利益	9.7	10.9	△10.7%

-トピックス-

- セールスアウトソーシング領域、ファクトリーアウトソーシング領域では新型コロナウイルスの影響で売上減少するも、コールセンターアウトソーシング領域、介護・保育領域は順調に推移
- 新規受注状況から採用費をコントロール (△1.2億(前年同期比))

-稼働スタッフ数（人）-



△203名
(20.03 4Q比)

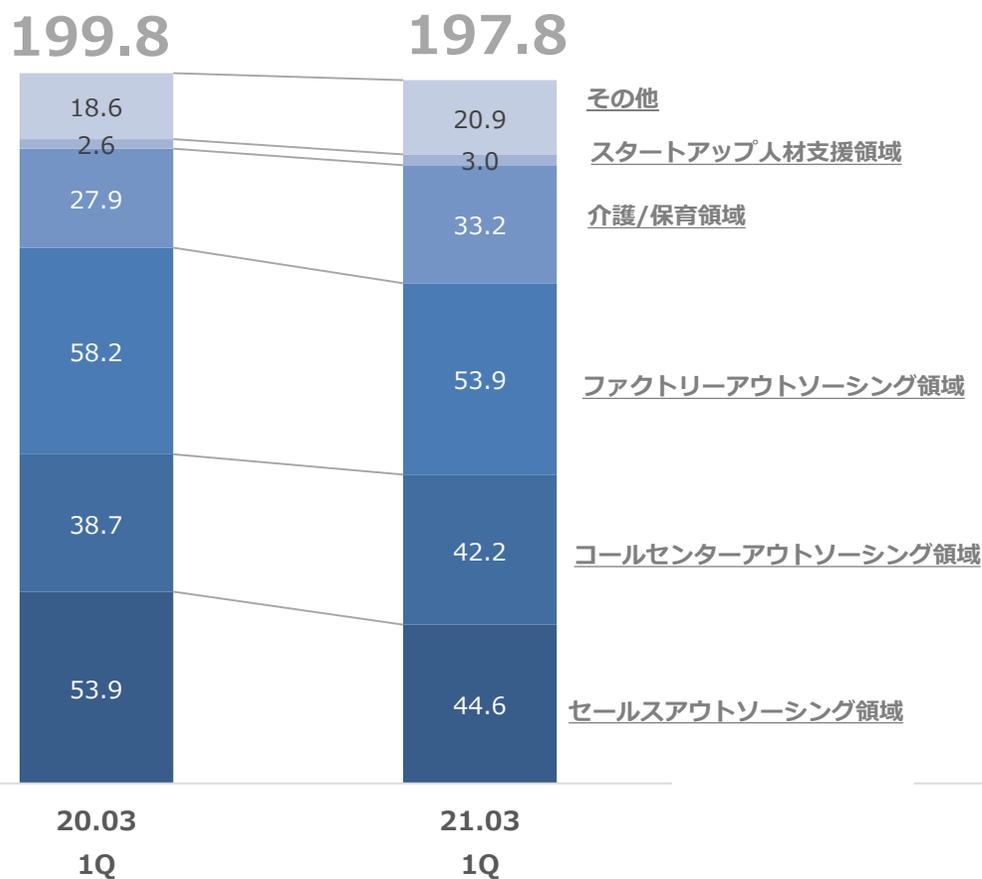
△1,327名
(20.03 4Q比)

△575名
(20.03 4Q比)

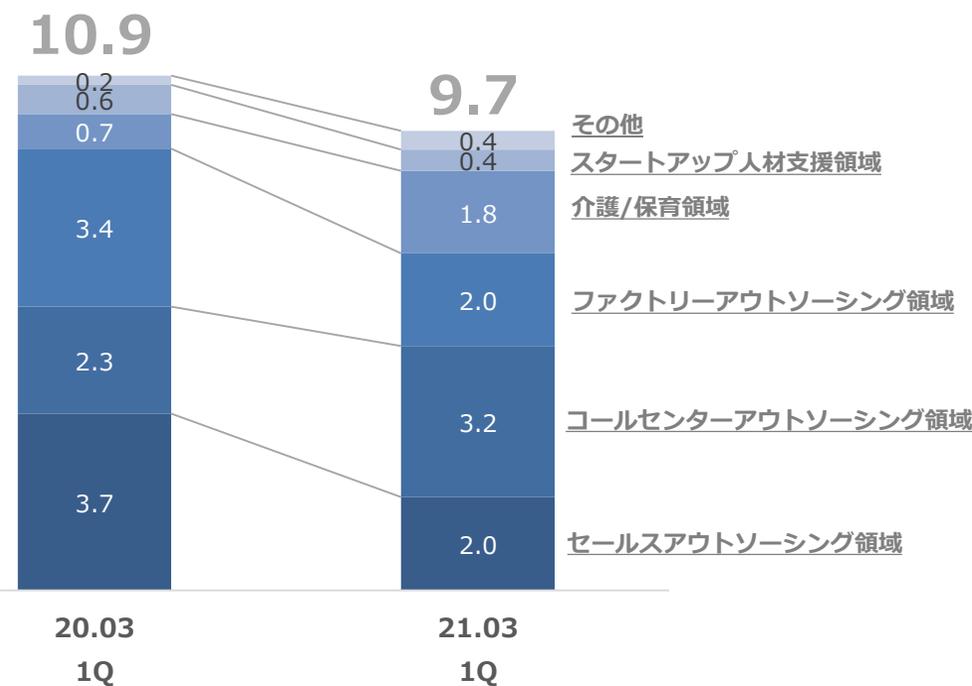
△716名
(20.03 4Q比)

コールセンターアウトソーシング領域、介護・保育領域は順調に推移

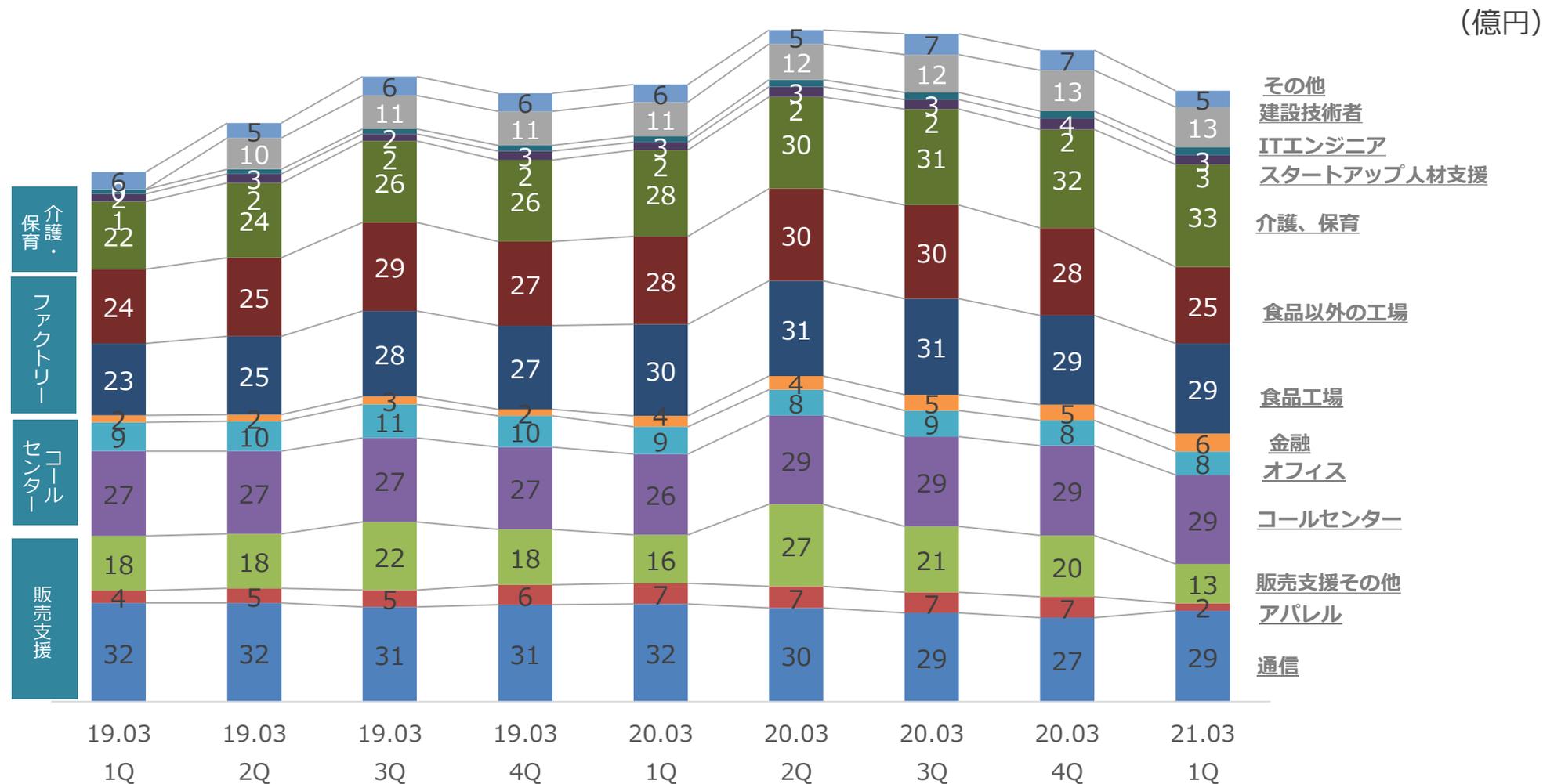
-領域別売上高（億円）-



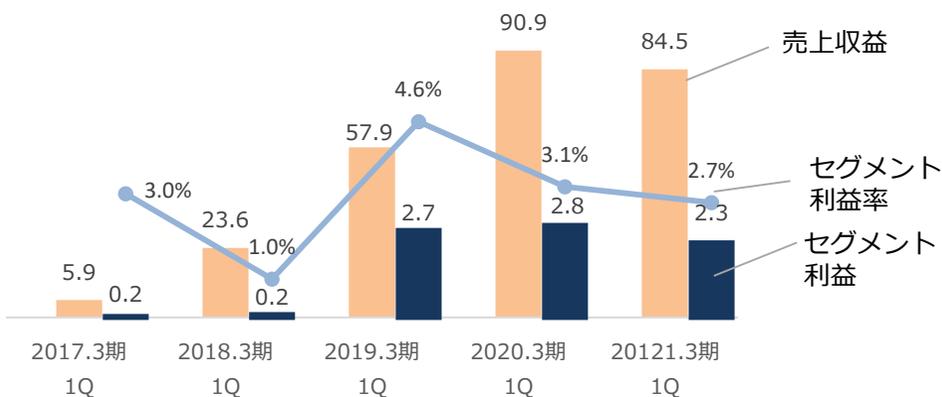
-領域別営業利益（億円）-



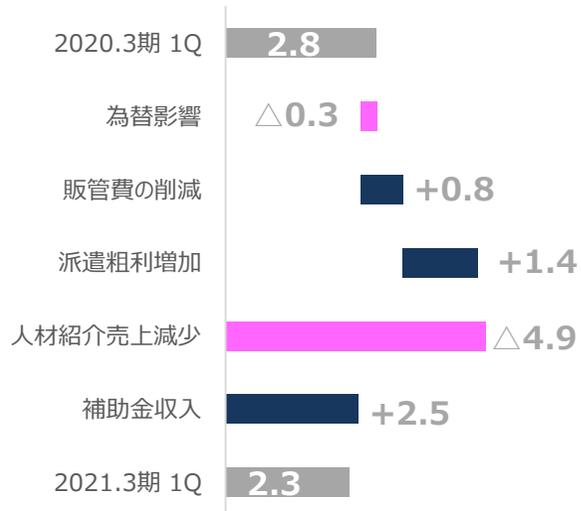
新型コロナウイルス感染拡大による業績影響のあった分野は、 アパレル、販売支援その他、食品以外の工場分野



-売上収益、セグメント利益（億円）-



-セグメント利益増減要因(億円)-



実績 前年同期 前年同期比

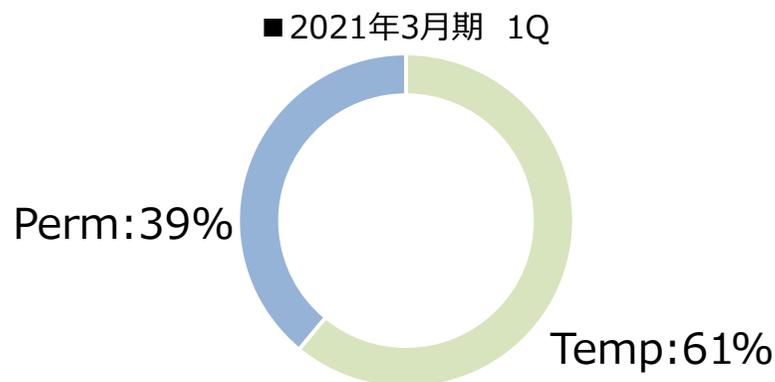
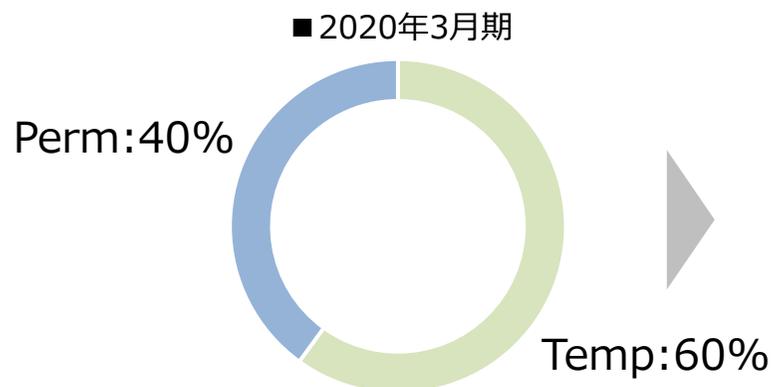
売上収益	84.5	90.9	△7.0%
セグメント利益	2.3	2.8	△18.2%

-トピックス-

- ▶ 豪州、シンガポールとも人材紹介は減少するも人材派遣は堅調に推移
- ▶ シンガポールにおける新型コロナウイルス対策としての雇用支援の補助金収入（約2.5億円）計上

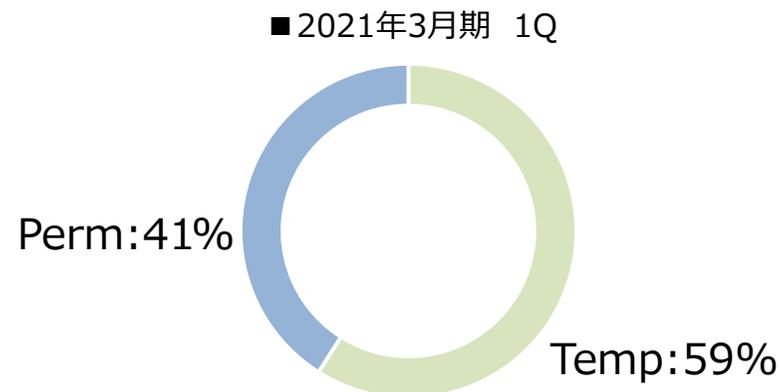
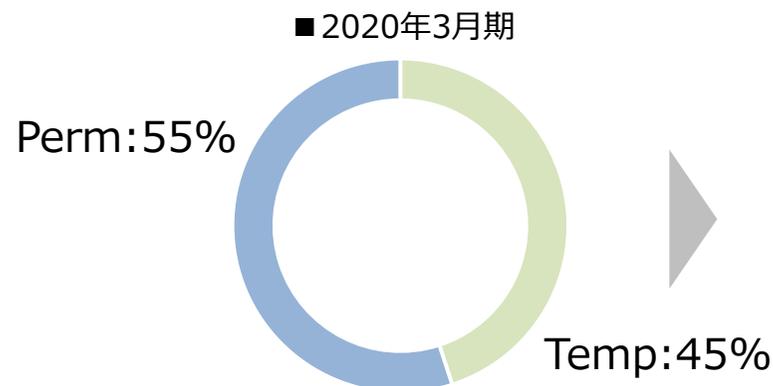
□ 為替感応度	当初 為替前提	1Q 実績	前年同期 実績	1円変動による影響額/年	
				売上収益	利益
オーストラリアドル	70円	70円	76円	3.8億円	0.1億円
シンガポールドル	75円	76円	80円	0.9億円	0.0億円

- 国内WORK事業 事業ポートフォリオ(粗利ベース)- →新中計期間最終年度目標:Temp:40% Perm:60%



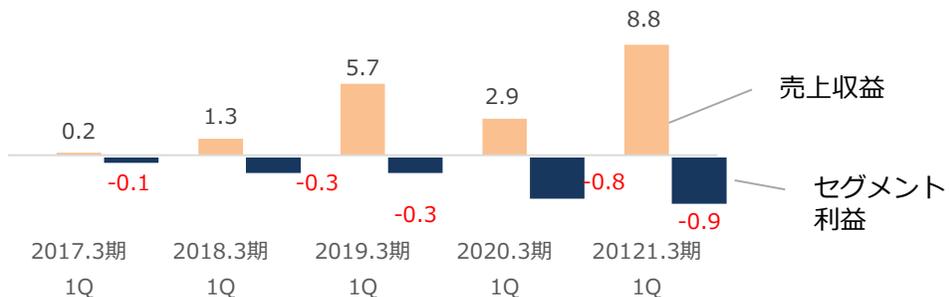
Permの内人材紹介は苦戦

- 海外WORK事業 事業ポートフォリオ(粗利ベース)- →新中計期間最終年度目標:Temp:60% Perm:40%



Permの内人材紹介は、前年同期3割程度減。
安定したTemp領域はコロナ禍でも堅調に推移

-売上収益、セグメント利益（億円）-



-その他の事業内容-

オーガニック



ビザマネ



M&A

ファンド (HRTech)

	実績	前年同期	前年同期比
--	----	------	-------

売上収益	8.8	2.9	+205.3%
------	-----	-----	---------

セグメント利益	△0.9	△0.8	-
---------	------	------	---

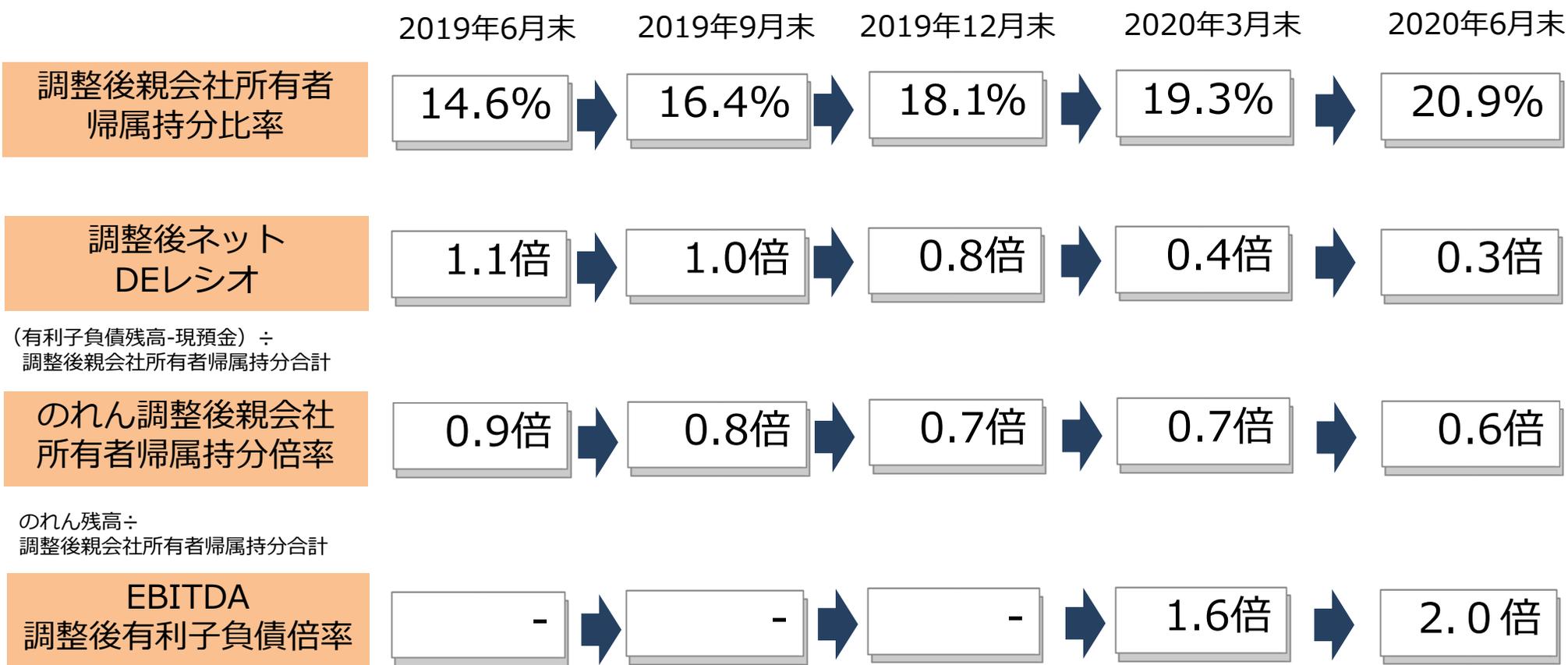
-トピックス-

- 販売用不動産の売却により売上増
- HRTech分野への先行投資（1.3億円）実施

■ビザマネ導入店舗数



調整後持分合計*ベースでの各財務指標は改善傾向



有利子負債残高（短期借入金除く） ÷ 予想EBITDA

* 調整後持分合計は、売建プットオプションを控除した持分合計

単位：億円	2020年 3月末	2020年 6月末	増減
流動資産	220	221	+0
非流動資産	225	228	+2
資産合計	446	449	+3
流動負債	215	227	+12
非流動負債	159	144	△14
負債合計	374	372	△2
資本合計	71	77	+6
負債及び資本合計	446	449	+3
親会社所有者帰属持分比率	11.7%	12.9%	+1.2pt

(増減の主な要因)

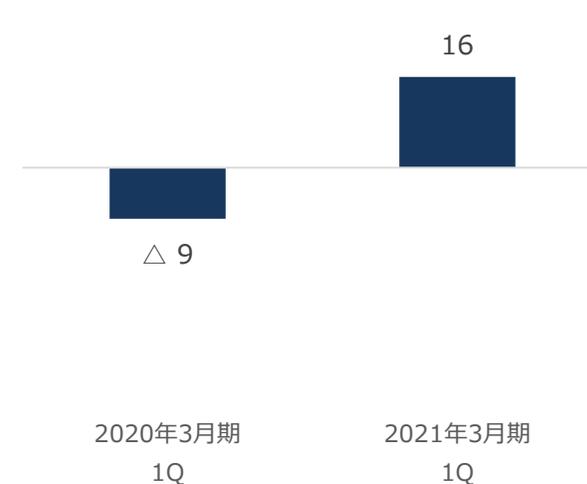
- 資産合計
 - ・ 現金及び現金同等物 +8億円
 - ・ 営業債権及びその他の債権 △8億円
 - ・ 使用権資産 △1億円
 - ・ のれん +2億円
 - ・ その他の無形資産 +3億円
 - ・ その他の非流動資産 △1億円

- 負債合計
 - ・ その他の金融負債（流動） +20億円
 - ・ 未払法人所得税 △6億円
 - ・ 借入金（非流動） △5億円
 - ・ その他の金融負債（非流動） △9億円

- 資本合計
 - ・ 資本剰余金 △2億円
 - ・ 在外営業活動体の換算差額 +5億円
 - ・ 利益剰余金 +1億円

(億円)	2020年3月期 1Q	2021年3月期 1Q	(増減要因)
税引前利益	10	9	
減価償却費及び償却費	4	5	
法人所得税の支払額	△8	△8	
その他の営業活動	1	6	
営業活動によるキャッシュ・フロー	8	12	営業債権の減少
有形固定資産等の取得及び売却	△2	△1	
子会社株式の取得及び売却	△15	0	
その他の投資活動	0	5	
投資活動によるキャッシュ・フロー	△17	3	M&A投資減少
有利子負債の純増減	17	△7	
連結範囲の変更を伴わない子会社株式の取得及び売却	△8	0	
支払配当金	△3	△4	
その他の財務活動	0	4	
財務活動によるキャッシュ・フロー	4	△8	連結子会社の株式の追加取得減少
換算レートの変動に伴う影響額	0	1	
現金及び現金同等物の増減額	△4	8	
現金及び現金同等物四半期末残高	63	68	
フリーキャッシュ・フロー(営業C/F+投資C/F)	△9	16	

フリーキャッシュフロー推移 (億円)



Ⅱ .2021年3月期 業績予想/配当予想

2Q以降、新型コロナウイルス再拡大等、先行きが不透明なことから、 保守的に想定

(億円)	2020.3月期	2021.3月期 (当初予想)	2021.3月期 (修正予想)	当初予想と 修正予想の差異
売上収益	1,219.1	1,200.0	1,200.0	0
うち国内WORK事業	844.3	836.2	826.9	△9.3
うち海外WORK事業	360.7	348.7	359.7	+10.9
うちその他	15.4	15.0	18.2	+3.2
うちIFRS調整	△1.4	-	△4.8	△4.8
営業利益 (営業利益率)	41.4 (3.4%)	20.0 (1.7%)	25.0 (2.1%)	+5.0
うち国内WORK事業	50.6	35.0	38.3	+3.3
うち海外WORK事業*	9.7	7.9	8.8	+0.9
うちその他	△3.5	△4.1	△4.2	△0.0
うち調整額	△18.6	△24.6	△23.8	+0.7
うちIFRS調整*	3.3	5.8	5.9	+0.0
親会社の所有者に帰属する当期利益	23.8	10.0	12.5	+2.5
EBITDA	61.3	40.0	45.0	+5.0

*海外の新型コロナウイルス対策としての雇用支援の補助金収入は、当初予想時にはIFRS調整としておりましたが、海外WORK事業に変更したため、当初予想を変更しています。

2021年3月期 業績予想の修正(セグメント、領域別)

(億円)

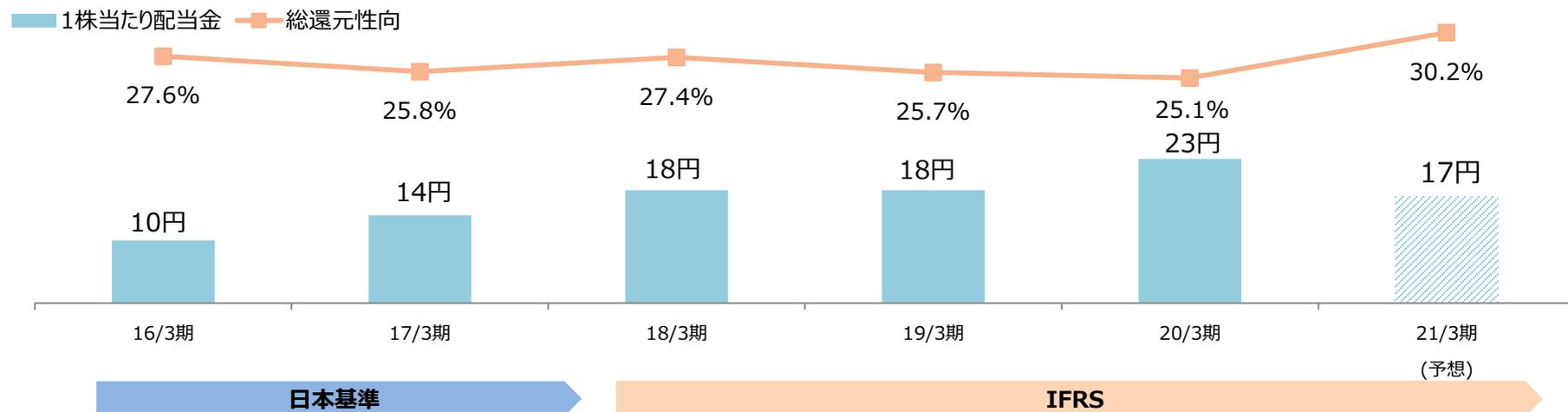
セグメント	領域	2020.3月期	2021.3月期 (当初予想)	2021.3月期 (修正予想)	増減率
		上段：売上 下段：営業利益	上段：売上 下段：営業利益	上段：売上 下段：営業利益	上段：売上 下段：営業利益
国内WORK 事業	セールスアウトソーシング領域	231.4	197.0	197.0	0.0%
		17.9	12.3	12.8	+3.5%
	コールセンターアウトソーシング領域	164.5	164.0	166.9	+1.8%
		9.9	8.9	11.0	+22.9%
	ファクトリーアウトソーシング領域	237.4	234.8	223.3	△4.9%
		13.4	9.6	7.5	△21.2%
	介護・保育領域	120.5	132.5	136.6	+3.1%
		3.6	4.2	5.8	+37.4%
	スタートアップ人材支援領域	12.6	-	3.0(1Q実績のみ)	-
		3.0	-	0.4(1Q実績のみ)	-
その他	77.2	100.0	100.0	0.0%	
	2.5	△0.1	0.7	-	
海外WORK 事業	シンガポール他 オーストラリア	360.7	348.7	359.7	+3.2%
		9.7	7.9	8.8	+11.4%

総還元性向：30%を目標としており、 業績予想の上方修正と合わせ、配当予想も修正（当初予想+3円/株）

	2020.3月期	2021.3月期 (当初予想)	(修正予想)
期末配当	23円/株	14円/株	17円/株
総還元性向*	25.1%	31.1%	30.2%

*総還元性向:親会社の所有者に帰属する当期利益に対する配当と自己株式取得の合計額の比率

■ 1株当たり配当金、総還元性向の推移



1株当たり配当金は、2016年12月1日（1対2）の株式分割を遡及計算して記載しております。

III. 參考資料

現時点の対応方針

(従業員)

- ・引き続き在宅勤務を推奨
- ・対面打ち合わせを自粛し、Web会議や電話会議を積極活用

(事業)

- ・アフターコロナを見据え、スタッフ、従業員の雇用を重視
- ・新型コロナウイルスによる影響の少ない事業への人員のシフト
- ・新規投資計画の一部見直しによる利益確保と資金繰りの安定化

→アフターコロナを見据え、ウィズコロナ下において状況を慎重に見極めつつ、機動的に対応

【国内WORK事業】

■ 売上収益

	1Q	2Q	3Q	4Q
2019.3月期	17,149	18,734	20,242	19,702
2020.3月期	19,984	21,752	21,628	21,098
2021.3月期	19,782			

【海外WORK事業】

■ 売上収益

	1Q	2Q	3Q	4Q
2019.3月期	5,798	6,286	6,959	7,197
2020.3月期	9,098	8,944	9,308	8,723
2021.3月期	8,457			

【その他】

■ 売上収益

	1Q	2Q	3Q	4Q
2019.3月期	578	264	286	422
2020.3月期	297	375	434	483
2021.3月期	885			

単位：百万円

■ セグメント利益

	1Q	2Q	3Q	4Q
2019.3月期	715	913	1,226	1,210
2020.3月期	1,091	1,360	1,341	1,279
2021.3月期	974			

■ セグメント利益

	1Q	2Q	3Q	4Q
2019.3月期	268	208	101	△149
2020.3月期	250	△7	496	232
2021.3月期	232			

■ セグメント利益

	1Q	2Q	3Q	4Q
2019.3月期	△37	△55	△13	42
2020.3月期	△84	△134	△72	△80
2021.3月期	△98			

【地域セグメント（海外）】

■ 売上収益（アジア）

	1Q	2Q	3Q	4Q
2019.3月期	1,338	1,412	1,442	1,700
2020.3月期	1,923	1,967	1,999	2,070
2021.3月期	1,276			

単位：百万円

■ 売上収益（オーストラリア）

	1Q	2Q	3Q	4Q
2019.3月期	4,468	4,881	5,523	5,508
2020.3月期	7,184	7,299	7,014	6,672
2021.3月期	7,181			

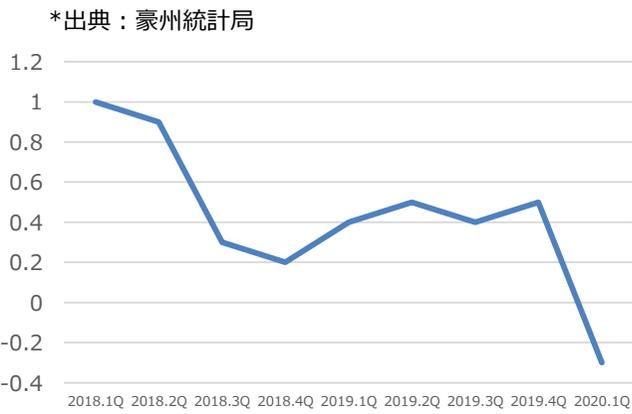
当社のビジネス環境

関連経済指標



景気減速、新型コロナウイルス感染症により、人材紹介に関しては、受注案件が減少傾向で推移してきたが、7月以降回復の見通し。一方、人材派遣については、政府系、IT、ファイナンス、リーガルについては安定的な需要があり、堅調に推移

■ 実質GDP成長率（前期比）

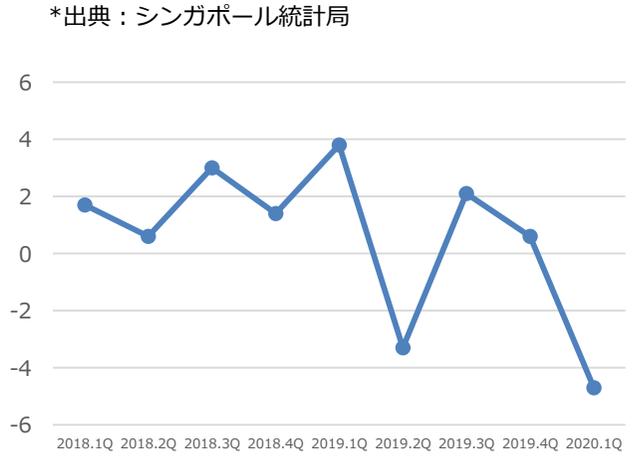


■ 完全失業率

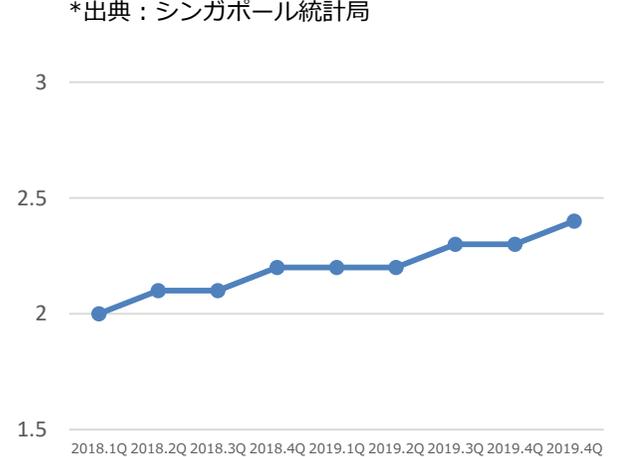


景気減速、新型コロナウイルス感染症により、人材紹介は前年と比較し減少。人材派遣については、不景気であっても一定の採用ニーズがあることから人材派遣にシフト

■ 実質GDP成長率（前期比）



■ 完全失業率



単位：億円	主要拠点	事業内容	連結開始 (株式保有率)	投資残高 *1	*2	2020.3期 1Q	2021.3期 1Q	前期比
	シンガポール	シンガポールを中心に、香港、日本、米国、中国、オーストラリア及び英国の各国の完全子会社を通じて、HR領域に特化した人材紹介、コンサルティング事業を展開	2019/1 (51%)	14.8	売上	3.3	2.4	△26.2%
					利益 *3	1.0	0.4	△58.6%
	ブリスベン	オーストラリアにおいて、政府機関及び大手企業に対して人材紹介及び人材派遣を展開	2019/4 (60%)	14.6	売上	15.5	15.1	△2.6%
					利益	0.9	1.4	+58.4%
	メルボルン	オーストラリアにおいて、政府機関、通信企業、エネルギー企業、電化製品製造業等、様々な業界の機関・企業に対し、事務職、コールセンター関連職の人材紹介及び人材派遣を展開	2018/1 (80%)	8.3	売上	28.8	30.7	+6.7%
					利益	1.0	0.7	△29.7%

*1 投資残高は、のれん残高と識別可能な無形資産残高の合計です。

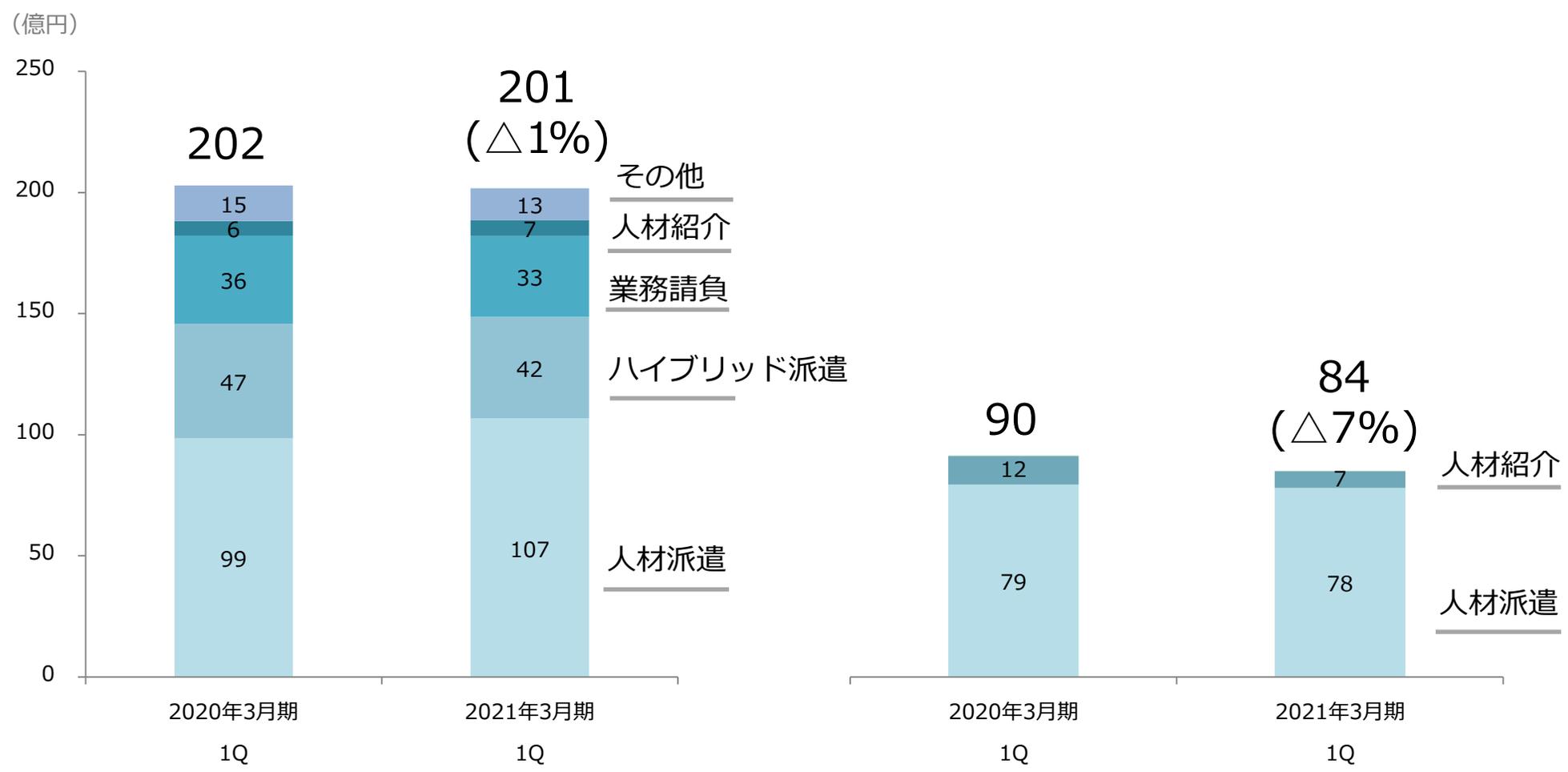
*2 連結開始時期を問わず、売上、利益の実績については連結会計期間の4月-6月の実績を記しています。

また、為替影響を除くため、1シンガポールドル=75円、1オーストラリアドル=70円で換算しています。

*3 利益については、識別可能な無形資産の償却額、内部取引、一時的に発生した費用を除いた税引前利益です。

国内人材サービス

海外人材サービス





WILL GROUP

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

■ IRに関するお問い合わせ先

株式会社 ウィルグループ

財務部 IRグループ